

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

東北大学

前期日程 文系

科目	数学
----	----

総括

試験時間	100分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	300~650点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年のような全体的に平易な問題が並んだセットと比較すると、今年は完答するのに苦労する問題が多く、文系としては重たいセットになっている。全問とも小設問に分けられているので、大問の完答が難しくても、各設問ごとに部分点を確保するようにしたい。また、解けた設問に対しては、結果に至る過程を丁寧に記述することも肝心である。数学が得意であれば、他の受験生に大きく差をつけることができたかもしれない。微分法、積分法、図形と式、整数、ベクトルなど東北大文系の頻出分野からバランスよく出題されていた。

〈特記事項・トピックス〉

①は理系①との共通問題、②は理系②との共通問題で、これは昨年も同様の形式である。

昨年は出題がなかった整数からの出題があった一方で、頻出の確率からの出題が見られなかった。

昨年は細かい設問に分けられていない大問があったが、今年は従来通り全問とも小設問に分けられている。

〈合格への学習対策〉

難易度は年によって上下するので、難度の高いレベル（一昨年や今年のようなレベル）を想定して対策しておくのがよい。高校数学全体から万遍なく出題されるが、頻出分野もあり、過去問の研究は必須である。特別なことをするのではなく、教科書に基づいた正統的な学習をすることが最優先であり、そのうえで様々なタイプの問題演習を積むのがよい。解決の方針が立つ問題については、ミスなく最後まで解き切ることやきちんと過程を記述することが重要である。また、難度の高い問題にも粘り強く取り組んで思考力を鍛えたい。駿台のテキストに沿って徹底した学習を積むことは極めて有効な対策である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
①	記述	II II	微分法 図形と式	放物線 $y = x^2$ の接線に関する論証と、それに関連する垂直二等分線の y 切片の最小値を考察する問題。基本的に、正確に計算していけばよい。	標準
②	記述	A	整数	$a^2 + 2b^2 = c^2$ を満たす正の整数 a, b, c に関する論証問題。(1)の結果を利用すれば(2)は直ちに示される。(3)も類題の経験があるであろう。	標準
③	記述	C A	ベクトル 図形の性質	大きさや内積が与えられている平面上の線型独立な2つのベクトルで、2線分の交点や直交条件およびベクトル方程式の表す図形を考察する問題。(1)、(2)はよくある問題である。(3)はOPについて整理してみることがポイントになる。	やや難
④	記述	II II	微分法 積分法	$f(x) = x^4 - x^2$ について、「曲線 $y = f(x)$ とこの曲線の二重接線 l で囲まれる部分」の面積 S 、「曲線 $y = f(x)$ とちょうど2つの共有点をもち、かつ x 軸に平行な直線と曲線 $y = f(x)$ で囲まれる部分」の面積 T について、 $\frac{T}{S} > \sqrt{2}$ を示す問題。幾何的考察を補助にすると、 T を一般的に計算しなくても示すことができる。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません